

ツマジロクサヨトウとは

ツマジロクサヨトウは、南北アメリカ原産の農業害虫で、とうもろこし、ソルガム、さとうきび、野菜類等、80種類以上の作物に被害を与えること、1世代で500km、1晩で最大100km移動するなど、長距離飛翔することが知られている。

【分布】

北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、日本、タイ、ミャンマーなど）、オセアニア（オーストラリア）
日本では、2019年7月に初めて発生が確認。

【寄主植物】

イネ科（いね、とうもろこし、さとうきび等）、ナス科（トマト、なす等）、ヒルガオ科（さつまいも等）、マメ科（だいず等）などの広範囲な作物

【形態・生態】

本種は暖地に適応した種であり、熱帯では年4～6世代発生する。原産地の南北アメリカでは、毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

日本では、飼料用とうもろこしをはじめ、スイートコーン、ソルガム、さとうきび等のイネ科作物での発生が確認されている。

【被害】

幼虫は、植物の葉、茎、花並びに果実を加害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。特に、生育初期の軟らかい葉を好んで食害する傾向にある。



図1 ツマジロクサヨトウ (♂)



図2 ツマジロクサヨトウ (♀)



図3 ツマジロクサヨトウ (幼虫)